

## 『まなこ』manako's 扉をあけて…



扉のむこうに  
一步踏み出すと、  
どんな世界が  
待っているかね…

イラスト／Naoko

# 成蹊大学メディアリテラシー実習 作品発表会を訪ねて



成蹊大学 見城武秀先生

情報化社会では情報との上手な接し方が重要だ。2005年4月から始まった授業「メディアリテラシー実習」。この授業は机上の講義だけではなく、実践を通して学ぶという新しい試みのものだ。授業で作品発表会があると聞き、文学部准教授・見城武秀先生の教室を訪ねた。

ま  
ず初めに、何で学ぶ「メディアリテラシー(media literacy)」の定義は？見城先生に伺った。

「リテラシーは普通、読み書き能力と訳されます。メディアリテラシーとは、テレビやラジオなど、いわゆる活字メディア以外のメディアに関する情報の読み解き・発信能力と考えると良いでしょう。普段、私はさすが、どれが信用でいい、できないのかを読み解いていく能力、さらにはメディアを使って情報を発信できる能力、と考えます」。



1つの映像、音響、ナレーションの入れ方によって、作品全体が大きく変わる。学生たちは真剣なまなざしだ。(写真提供 むさしのみたか市民テレビ局)

で  
はそのメディア  
リテラシーをどうやって学ぶのか？  
さつそく発表会を見学した。  
この実習は学生たち自らテレビ・ラジオ番組やウェブサイトを企画し取材・撮影・編集をして発表しあう授業。「まさしのみたか市民テレビ局(以下テレビ局)」「エフエムまさしの」「NPO Kiss's」の協力を受け、武藏野市・三鷹市のコミュニティをテーマに、実習に取り組む。学生たちは、見城先生から提示された高齢者と子育てをテーマに選んだ。それぞれ企画を練り、作品のねらいを決めていく。高齢者施設、そこに集う高齢者たち、

見城先生の実習のねらいがあるようだ。  
「現代は多種多様なメディアがあり、特にインターネットを経由して得られる情報は正しいのか分からぬことが多い。かつてテレビや新聞がメディアの主流であった時代は例えるなら情報デパートで買っていったわけです。しかし現代は玉石混交で、とても価値のある情報が簡単に入手できる一方で、根拠のない情報が正しい情報のような顔をして平然と並んでいる…このような中で私たちは情報の真偽を吟味できる鑑識眼が必要となつて

実習の意義、成果をお聞きした。

さ  
らに見城先生は、「学生が学ぶ」この地域を見直すことの大切さをおつしやつた。

「地域を普段とは違う角度で眺め直してほしいのです。学生たちはあまり地域と接点がないですが、実習によつて地域に入り、プロセスを通して今までとは違つた地域の姿を発見する効果もある。またテレビ局は今まで培つてきたネットワーク(地域資源)に学生たちを招き入れてくれる。技術的なサポートと両面でやつていただき感謝しています。これらの経験によって、将来若者たちがどこに暮らすことになつたとしても、その地域にある同様の資源の存在に目を向けることになると思います」。

取材 林 直子(文)

児童公園・施設、市役所、母親や子どもたちを撮影しテーマに迫る。どの作品も若者らしさ率直な力作ばかりだ。ほかのグループの作品を見て学生同士で感想を述べ合う。撮影している時には気づかなかつた力の方など、見城先生やテレビ局の方々からコメントしていただいた。制作を通して発見したこととは？制作してから映像の見方に変化はあつた？武藏野・三鷹地域について発見は？などの見城先生の問いかけに、学生たちは多くの発見を発言していた。完成までの糾余曲折の過程に、見城先生のねらいが見事に達成されている。

きます。応用可能な鑑識眼を身に付けるために、一人ひとりが日常生活で出会う情報を対して自分の判断を働かせなくてはいけません。そのためには、実際に情報を発信する経験が大きな意味を持ちます。メディアを使って編集・発信することによって、今まで自分たちが受け手だった時とは違う側面が見えてくるはずです。違う視点で眺め直すことによって、情報を批判的に読み解く能力が身に付くのです。情報は初めからまとまつた形であるように思われがちですが、受け手に理解してもらうためには編集過程で工夫や努力が必要だということを学生たちは学びます」。実習のねらいが見事に達成されている。

# TOPICS ■ 市民協働推進課 男女共同参画担当では ■ ■ ■

## ■平成19年度武藏野市男女共同参画計画推進状況調査報告書ができました。

これは平成20年7月8日開催の男女共同参画推進会議（副市長を議長とし関係6部13課の部課長で構成）の資料として作成し、男女共同参画計画を推進するための関係部課の事業報告・今年度の予定、各種委員会の女性割合などをまとめたものです。

報告書は市民協働推進課、図書館、むさしのヒューマン・ネットワークセンターで閲覧できます。また、市ホームページでも公開しています。

## ■武藏野市男女共同参画に関する意識調査を実施

平成20年7月、満20歳以上の市民の皆様から1,500人（男女各750人）の方を無作為抽出して意識調査を実施しました。

◇回収結果 有効回収数 546人  
(女性:328人、男性:202人、不明16人)  
有効回収率 36.4%

◇報告書は11月末発行予定で、市民協働推進課、図書館、むさしのヒューマン・ネットワークセンター等で閲覧できます。

## ■女性に対する暴力をなくす運動

暴力は、その対象の性別や加害者と被害者の間柄を問わず、決して許されるものではありません。▲

●市役所 母子・女性相談 0422-60-1852 (祝日・年末年始を除く月～金曜8時30分～17時)
●東京ウィメンズプラザ 03-5467-2455 (年末年始を除く毎日9時～21時)
●東京都女性相談センター 03-5261-3110 (祝日・年末年始を除く月～金曜 9時～20時)
●東京都女性相談センター多摩支所 042-522-4232 (祝日・年末年始を除く月～金曜9時～16時)
●夜間・緊急の場合 警察(事件発生時) 110番 東京都女性相談センター 03-5261-3911

毎年11月12日から25日（11月25日は女性に対する暴力撤廃国際日）までの2週間「女性に対する暴力をなくす運動」が実施されます。市では11月11日（火）から21日（金）正午まで市役所1階ロビーでむさしのヒューマン・ネットワークセンター運営協議会と共にパネル展を開催します。

## ■配偶者暴力防止法が変わりました。

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（配偶者暴力防止法）」が改正され、平成20年1月11日よりスタートしました。

### ●改正の主な内容

#### I. 保護命令制度の拡充

1. 被害者が生命・身体に対する脅迫を受けた場合も保護命令の申立てができます。
2. 被害者に対する電話・電子メール等（以下の①～⑧）が禁止されます。
  - ①面会の要求
  - ②行動の監視に関する事項を告げること等
  - ③著しく粗野・乱暴な言動
  - ④無言電話・連続しての電話・ファクシミリ・電子メール（緊急やむを得ない場合を除く）
  - ⑤夜間（午後10時～午前6時）の電話・ファクシミリ・電子メール（緊急やむを得ない場合を除く）
  - ⑥汚物・動物の死体等の著しく不快又は嫌悪の情を催させる物の送付等
  - ⑦名誉を害する事項を告げること等
  - ⑧性的羞恥心を害する事項を告げること等又は性的羞恥心を害する文書・図画の送付等

3. 被害者の子及び親族等も接近禁止命令の対象となります。

#### II. 市町村基本計画の策定

#### III. 配偶者暴力相談支援センターに関する改正

#### IV. 裁判所からの支援センターへの保護命令の発令に関する通知

詳細は内閣府 配偶者からの暴力被害者支援情報サイト  
<http://www.gender.go.jp/e-vaw/index.html>

## ■企画政策室市民協働推進課 男女共同参画担当

TEL 0422(60)1869 FAX 0422(51)9540

URL <http://www.city.musashino.lg.jp/>

## Reporters' 200 Words

強いものです。子育てを通して、ネットワークを築くにはおつくうがらずコミュニケーションを取っていくことが大切な感じています。



三浦雅子（境南町）

『まなこ』レポーターの方に順番に執筆していただきます。

### まず一步前に踏み出す

インターネットは、考え方や感じ方が違う人たちとは情報を交換しない傾向にあります。情報量は飛躍的に増えたのに、それを使いこなす能力や倫理力との間に大きなアンバランスが生じている。機械を通じてきた情報から、気持ちもしつかり受け取ってほしい。



情報化社会

田中博（境南町）

### 情報ネットワーク、活用しますか？

●レポーターの200字コラム

## 平成20年度 第2回 レポーター会議

71号

## 「ワーク・ライフ・バランスを知る～自分らしく生きるために」を読んで

- リニューアルして、表紙が変わり、20～30代の若い世代も手に取りやすくなった。  
(20代・女性) (40代・女性)
- ワーク・ライフ・バランスについて、一般的でわかりやすい内容だった。  
(60代・男性)
- 実際にワーク・ライフ・バランスの制度がどこまで取り入れられているかは疑問だ。  
(20代・女性)
- 読者アンケートのまとめ方について、もっとグラフを使用した方がわかりやすいのでは…。  
(60代・男性)
- 4人の方へのインタビュー記事は興味深く読んだ。前向きな話が多く、良かつた。  
(30代・女性) (40代・女性)
- バランスということではシニアも悩みが深い。時間はあるが、働く場がない。  
(60代・男性)
- ワーク・ライフ・バランスの実現に向けては、雇用する側、雇用される側、行政が一緒にになって考えなければいけないと感じた。  
(40代・男性)

7月10日(木)10:00～12:00  
市役所606会議室にて

72号

## 「【知る】ために～地域の情報ネットワークを活用しよう！」に向けて

- 幼稚園の母たちのネットワークで、生の声を聞いている。(30代・女性)
- ワーキングマザーなので、人と人のつながりより、学校からのお知らせなどで情報を得ることが多い。  
(20代・女性)
- 地域との密着が少なく、もっぱら市報から情報を得る。  
(60代・男性)
- パソコンを使ってソーシャル・ネットワーキング・サービスを利用しているが、知人に限定して利用している。  
(20代・女性)
- 手軽に情報を得るには「わたしの便利帳」が使いやすい。  
(60代・男性) (20代・女性)
- 市のホームページが使いにくい。  
(20代・女性)
- 女性はネットワークを広げるのが上手だが、男性は苦手。  
(40代・男性)
- 男性がもっと参加できる場所や、そのための情報がほしい。  
(60代・男性)



## BOOKS

今回のテーマに関する本を、むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書の中から



## ● 切り抜き情報誌「女性情報」

パド・ウィメンズ・オフィス

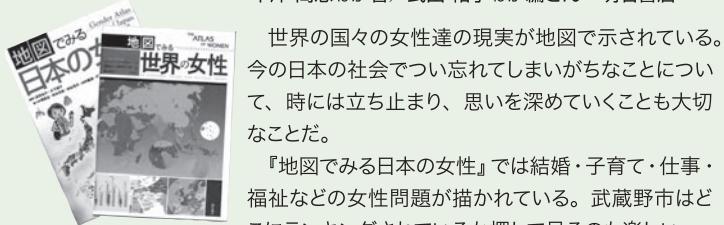
タイトル通り、新聞から「女性」という切り口で、政治・健康・映画・教育・ジェンダー・労働などの記事を切り抜きした「月刊誌」である。なかなか読む機会のない地方新聞の記事を読むこともできるし、評論家の立花隆氏が行っているように、日々の新聞を系統立てて切り抜き、まとめる、情報源としてとても有用であることがわかる。特に映画の紹介は充実していると思う。

## ● 地図でみる世界の女性

ジョニー・シーガー著／原 民子ほか訳 明石書店

## ● 地図でみる日本の女性

中澤 高志ほか著／武田 祐子ほか編さん 明石書店



世界の国々の女性達の現実が地図で示されている。今の日本の社会でつい忘れてしまがちなことについて、時には立ち止まり、思いを深めていくことも大切なことだ。

『地図でみる日本の女性』では結婚・子育て・仕事・福祉などの女性問題が描かれている。武蔵野市はどこにランキングされているか探して見るのも楽しい。

武蔵野市境 2-10-27 武蔵境市政センター2階 TEL・FAX 0422(37)3410  
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp URL http://www.mhnc.jp/

編
集
後
記

## ★ STAFF

レポーター 井上牧子 栄井 薫  
田中 博 新倉育男  
橋本光枝 林 直子  
久松義孝 藤元ちえ  
松田由有 三浦雅子

取材・編集 作部径子（編集長）  
遠藤梨菜 戸田真帆子  
林 直子 守谷洋子  
渡辺令子

編集協力 栗原 毅  
表紙デザイン きたもりちか  
レイアウト 小井戸厚子  
印刷 制作 社会福祉法人  
東京コロニー

- ★ postscript ★ postscript ★ postscript ★ postscript
- 1月15日発行予定の73号は「【知る】喜び」  
（お詫びと訂正）  
08年7月15日発行「まなこ」71号2ページ掲載の  
「夫婦の家事・育児の分担割合」理想と現実の  
ラフに誤りがありました。お詫びして訂正します。
- まなこと「まなこ」（仮）がテーマです。  
はじめての「まなこ」への参加で、出  
会ったドキドキ感はまさに知る喜びでした。  
（守谷洋子）
- 情報ネットワークを取材して、人と人  
のつながりを再認識。「まなこ」ネット  
ワークも大切にしたい。（渡辺令子）
- 情報ネットワークを取材して、人と人  
のつながりを通して、新たな出会いが生まれ  
ます。「まなこ」と一緒に「学び」につい  
て考えてみませんか？  
（作部径子）
- まなこと「まなこ」（仮）がテーマです。  
はじめての「まなこ」への参加で、出  
会ったドキドキ感はまさに知る喜びでした。  
（守谷洋子）
- 行動範囲も知り合いもどんどん増えて  
いきます。「まなこ」を楽しんでいます。  
（林 直子）
- 情報化社会では、受け手の判断力が試  
されるとの見城先生のお話が心に残り  
ました。（戸田真帆子）
- 情報を発信する人の想いを知ることで、  
情報により身近に感じられるようにな  
った。（遠藤梨菜）